

● 校内写真



● 学校全体での取組事例

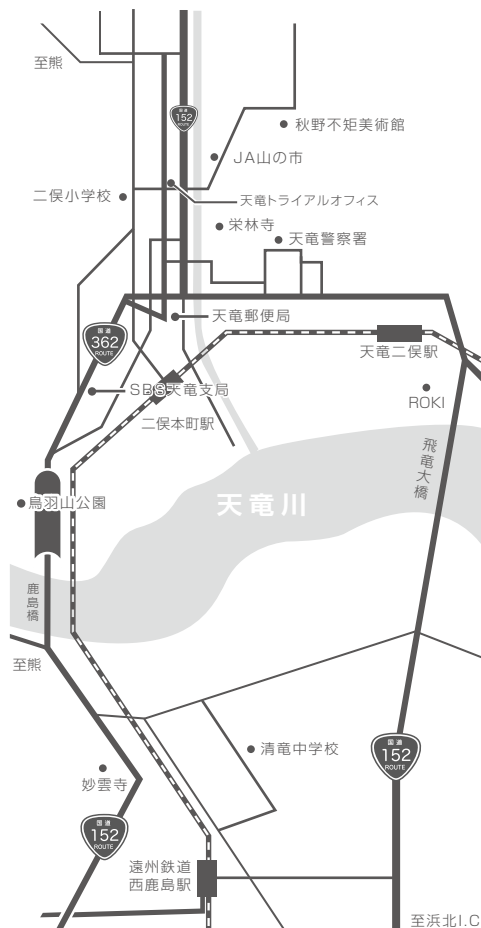


2年生総合的な探究の時間で、浜松学院大学や天竜厚生会との協働事業として、観光ガイドアプリ「KOTTO」の開発や「ちょっと大人のマドレーヌ」の考案・販売を行っています。その他の授業でも地域の方を講師にお招きしたり、中山間地域を対象としたフィールドワークを行ったりしています。

● 公共交通機関ご利用の方

遠州鉄道新浜松駅より西鹿島行きに乗車し西鹿島下車。
遠鉄遠州バス山東行きへ乗車し車道バス停にて下車。
徒歩3分にて天竜高校着。(新浜松駅より約50分)

● 天竜高等学校二俣校舎



静岡県立
天竜高等学校二俣校舎

〒431-3314 静岡県浜松市天竜区二俣町二俣601
TEL (053) 925-3139 FAX (053) 925-7422
<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/tenryu-h/home.nsf>

フェイスブックで情報発信
天竜高等学校地域協働室の活動内容や
日々の出来事をfacebookでお伝えします。



インスタグラム更新しています
天竜ラボの活動や
学校行事を日々更新していきます。



発行日 2023.3



静岡県立天竜高等学校

TENRYU

地域と一体化する高校 天竜ラボの取り組みVol.2

この取り組みは静岡県「オンリーワン・ハイスクール」事業の一環です

天竜ラボの活動

天竜Lab. (天竜ラボ) は、学校から離れ、地域で、地域の人と、地域のことを考える拠点として、2021年2月有志生徒4人によって設立されました。高校生として地域のことを自分事として捉え、天竜の魅力を再発見し、天竜の社会課題を楽しみながら解決していくことを目的としています。

設立当初から、天竜デザイン事務所の玉田哲也さんには本校の地域協働コーディネーターとして、天竜ラボの活動協力をお願いしています。

現在取り組んでいることは次の4つです。

(1)「天竜の未来を考える若者会議」の計画と運営 (2022年度は3回実施)

(2)五平餅や天竜茶の調査と魅力の発信 (『GOHEIMOCHI』発行)

(3)新作五平餅の考案と製作・販売 (道の駅くんま水車の里での販売)

(4)近隣地域との比較研究 (天竜区佐久間地域、長野県天龍村訪問)

将来的には、天竜区に住む中学生や小学生、地域の皆さんと一緒に天竜区の未来を考えていきたいです。

天竜高等学校は、令和3年度から静岡県教育委員会が実施する「オンリーワン・ハイスクール」事業のフューチャー・ハイスクールに指定されています。天竜Lab. (天竜ラボ) の活動は、この事業の一環です。

学校長から

日ごろから天竜高等学校に御支援をいただいている地域の皆様、保護者の皆様をはじめ、本校の取組をお支えいただいているすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による制限のある状況の中、天竜ラボで活動する生徒たちは、地元天竜の魅力を発掘するとともに、地域の課題に誠実に向き合い取り組んでいます。今後とも天竜ラボの活動に御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

静岡県立天竜高等学校 校長

天竜ラボの取り組み (一部)

天竜の未来を考える若者会議



地域の方々と地域の魅力や課題を再認識し、天竜の未来について意見交換を行っています。
2022年12月時点で6回開催しました。継続することで、多くの地域の人に参加していただけるようになりました。

新作五平餅制作・販売



道の駅くんま水車の里と連携し、2021年には、ピザ味と鹿肉味、2022年にはポテチ味と抹茶チョコ味の五平餅を制作・販売しました。毎回120本の限定で販売しています。高校生の作った新しい味が珍しいと好評です。

五平餅冊子『GOHEIMOCHI』発行



天竜区で愛されている五平餅を区内外の人に伝えるために五平餅のパンフレットを作成しています。2023年2月には、Vol.2を発行しました。天竜区内の五平餅店を取材して、それぞれの店舗、店主の方の紹介をしています。また五平餅に合うお茶の紹介もしています。

長野県天龍村フィールドワーク



長野県下伊那郡天龍村を訪問しました。天龍村は、天竜区と隣接する地域です。天竜区との比較調査を行ったり、天龍村役場の方々や地域おこし協力隊、村松久一さんのお話を聞いたりしました。天龍村と天竜区は地域の魅力や課題がとても似ていたのが印象的でした。

天竜ラボの活動は、地域の方々とともに、天竜の魅力を見つけて広めていくものです。

活動メンバーから



天竜ラボの活動は、地域の方々とともに、天竜の魅力を見つけて広めていくものです。日々の学校生活では経験できない事がたくさんあり、一つ一つの活動が私たちを成長させてくれます。新しい発見や気付くことが多く、とても良い経験になっています。天竜区は、自然が豊かで、人々が温かいなど、伝えきれないほど多くの魅力があります。天竜区の魅力をもっと幅広い人に伝えられるよう頑張ります。

1年 馬淵 百佳



天竜ラボの活動を続けるうちに、天竜にたくさんの魅力が隠れていることに気がつきました。そして、想像以上に可能性に満ちた地域であると分かり嬉しく思いました。一方で、この魅力的な天竜の姿を知らないという人はたくさんいると思います。これからはより多くの人たちにこの天竜の姿を発信し、天竜のことを好きになってもらえるように頑張っていきます。

1年 若松 大真

天竜ラボへの期待



天竜ラボの活動は、地域の課題を解決するために生徒たちが主体となって取り組むことで、地域の人々との交流や協力関係を深め、街の発展に貢献することも目的としています。この活動によって、生徒たちは自らの手で地域をよくすることができるという自信や責任感、協調性などの社会的スキルを身につけることができます。また、地域の課題を知り、解決するための発想力や創造力、問題解決能力なども身につけることができます。地域の人々にとっても、生徒たちが取り組む姿勢や成果に対して、感謝の気持ちを持ち、地域に対して更に愛着を持つキッカケになると期待しています。

地域協働コーディネーター
土田 哲也

地域の方から天竜ラボへの期待



高齢化が進んでいる商店が多い中に若い感性&息吹を吹き込んで頂く活動を継続してほしいと思います。天竜ラボのパワー

で各店舗の良さや改良点等を可視化しアピールすべき所等を店側の方と共に掘り出し、消費者に伝える事が出来たら素晴らしいと思います。ご協力をお願い申し上げます。

クローバー通り商店会
会長 渥美 芳弘



天竜ラボの皆さんには、これからも天竜の素晴らしい自然と人に関心を持ち、その魅力を発信し続けて頂きたい

と思います。そしてそんな皆さんの新しい視線が、何十年も先まで続く持続可能な魅力に繋がるのだと思います。天竜区が皆さんの活躍により「住む人」も「来る人」も心が豊かになり、笑顔と元気で溢れる地域になることを期待しています。

森のマルシエきころ
理事長 池田勝臣



天竜ラボの皆さんには、これからも地域に入って行く活動をして頂きたいと思っております。

もっと他の地域の方にも天竜の魅力が伝わり、ここ天竜が住みよく明るく、元気が溢れる地域になって欲しいと思っております。皆さんには、地域との関わりを大切に、天竜の魅力を伝えて行く活動をこれからも、行っていってください。私たちは皆さんの活動を応援しています。

くま水車の里 高橋 薫



高校2年時、教室の廊下。ヨシハルが言う。「お前、顔く(同調する)のが上手いな。」私が老境に入っても、ふと思

出す、他者に合わせようとする頃を。その言葉をきっかけに「待てよ。」と一呼吸置いて自分の意見を考えるようになった。かえって他者と話す機会が増え、関係性が深まったのではないかと!頑張り天竜ラボ!地域に聞け!地域を知ろう!地域に若い声を!

天竜商工会
事務局長 島 明男


2023まちむらリレーション市民交流会議発表資料

わたしたち
高校生がつくる
地域の未来

天竜高等学校 天竜ラボ
2023まちむらリレーション市民交流会議

1P

静岡県・浜松市
天竜区



浜松市
天竜区
の概要

面積	943.84㎢	人口増減率 (2015～2020年)	市域割合	61%
人口	26,285	高齢化率 (2020年)	森林率	91%
世帯	12,059		道の駅	3カ所
男	12,781		「ふみまふの里」	
女	13,504	45.60%	「天竜相模花の里」	
			「いつぶく劇場川」	

※2022年12月住民基本台帳

2P

3 天竜の未来を考える若者会議

第1回	2020年12月26日(土)	第2回	2021年07月18日(日)
本校視聴覚室10:00～12:00		本校視聴覚室13:00～15:00	
地域の方々	11人	地域の方々	16人
浜松学院大学教職員	2人	浜松学院大学教職員	2人
浜松学院大学大学生	3人	浜松学院大学大学生	3人
本校教職員	6人	本校教職員	10人
本校生徒	14人	本校生徒	16人
計36人		計47人	

第1回後に天竜ラボ設立。第2回より天竜ラボが計画、運営にあたる。

9P

3 天竜の未来を考える若者会議

第3回	2021年12月22日(水)	第4回	2022年03月19日(土)
本校視聴覚室10:00～12:00		本校会議室10:00～12:00	
地域の方々	23人	テーマ別探究発表	
浜松学院大学教職員	2人	1. 地域防災とネットワーク作り	
浜松学院大学大学生	2人	2. 二俣地区の活性化プロジェクト	
愛知大学A.C.浜松	5人	3. マルカワの蔵を起点としたコミュニティ作り	
本校教職員・本校生徒	37人	4. 天竜区のブランディング	
計69人		計20人での開催	

第4回は新型コロナウイルス拡大により少人数での限定開催。

10P

1 天竜高等学校 木の香りする明るい校舎

共学 生徒数 468人

【魅力】
地域の自然や文化を愛し、地域の発展に貢献することができる人材を育成するとともに、自らの目標に向かって粘り強く努力し、未来を切り拓くことができる人材を育成する。

【何ができるか】
・理解力 ・学力 ・リスペクト ・チームワーク ・自律
・コミュニケーション力 ・向上心 ・適応力

【ミッション】
地域の未来を創造し、明日を創造(つく)る竜になる。

【沿革】
2014年 静岡県立天竜高等学校として開校。二俣校舎と春野校舎、森林環境科・総合学科(人文自然・総合ビジネス・建築・未来創造・福祉系列)併置。
2021年度から静岡県「オンライン・ハイスクール」事業実施校の指定を受ける。「フューチャー・ハイスクール」中山間地域の社会資源やICTの活用)2023年度から福祉科が新設。

3P

2 天竜ラボについて 五平餅が大好きな高校生

生徒数 8人

【目的】
2021年2月設立。2020年12月の第1回「天竜の未来を考える若者会議」で地域の方々から、学校外に地域連携の拠点があるといいとの助言によって、有志生徒が集まる場をつくる。

【理念と目的】
①学校から離れ、地域で、地域の人と、地域のことを日常的に考え再発見し、天竜の社会課題を高校生目線で楽しみながら解決していくことを目的とする

【主な活動】
1. 「天竜の未来を考える若者会議」の計画と運営(第2回より)
2. 天竜のロープレットの作成
3. 天竜の郷土料理をもとにした新商品の開発
4. 天竜地区内外の調査

4P

3 天竜の未来を考える若者会議

第5回	2022年07月23日(土)	第6回	2022年12月23日(金)
森のマルシェさきころ2階17:00～18:30		本校視聴覚室13:30～15:30	
①本校生徒による「100年後の天竜」	地域の方々	26人	
テーマ発表。	愛知大学A.C.浜松	3人	
②浜松学院大学学生による「IKOTTOプロジェクト」	県立高校教員	3人	
進捗状況報告。	本校教職員	8人	
	本校生徒	42人	
		計82人	

参加人数不詳

第5回はクローバー通り商店街地域イベント「フェスタ天竜」内での開催。

11P

3 天竜の未来を考える若者会議

【前半】全体会
活動報告(学校、天竜ラボ)
論点の整理(地域協働コーディネーター)

【後半】グループワーク
テーマ型(天竜の魅力、高校生にできること)
井戸端会議型(フリートーク)



12P

2 地域の方との協力活動

天竜区の未来を考える若者会議



五平餅販売
五平餅スイーツ
静岡文化芸術大学交流会

5P

2 地区外活動・表彰

静岡県主催
アオハルし放題
審査員特別賞

長野県天龍村 訪問
筑波大学附属戸
高等学校 交流会

静岡県・静岡大学等
健康・長寿学術
フォーラム
参加賞

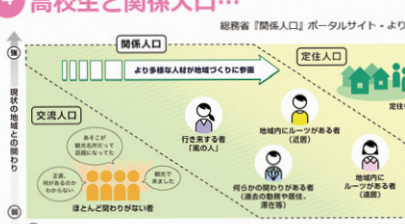
浜松湖北高等学校佐久間分校 交流会

浜松市
善行奨励賞

6P

4 高校生と関係人口…

総務省「関係人口」ポータルサイトより



関係人口: 地域外に在住するが、地域内にネットワークがある者(訪問)、地域外にルーツがある者(通勤)、地域内にルーツがある者(通勤)

定住人口: 地域内に在住する者(定住)

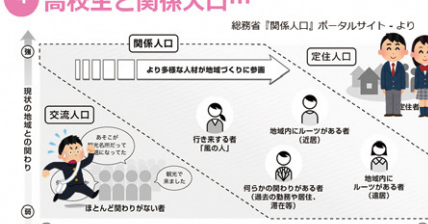
交流人口: 地域外に在住するが、地域内にネットワークがない者、地域内にルーツがない者

地域との関わりへの思い

13P

4 高校生と関係人口…

総務省「関係人口」ポータルサイトより



関係人口: 地域外に在住するが、地域内にネットワークがある者(訪問)、地域外にルーツがある者(通勤)、地域内にルーツがある者(通勤)

定住人口: 地域内に在住する者(定住)

交流人口: 地域外に在住するが、地域内にネットワークがない者、地域内にルーツがない者

地域との関わりへの思い

14P

2 メディア掲載

2020.12.29	中日新聞(朝)
2021.01.04	静岡新聞(朝)
2021.10.19	中日新聞(五)
2021.12.04	SBSテレビ(アオ)
2021.12.28	浜松市webサイト
2022.01.19	中日新聞(五)
2022.06.05	静岡新聞(五)
2022.06.07	中日新聞(五)
2022.07.27	静岡新聞(朝)
2022.12.14	浜松市webサイト(朝)

広報はままつ 2022.7
はままつ社協より 2022.6

高校生の活動を通して、天竜区の魅力や資源について区内外に発信していただける

7P

3 天竜の未来を考える若者会議

2020年度	2021年度	2022年度
12月 第1回 地域のおとなが地域について高校生に伝える	7月 第2回 高校生にできるアクションプランを考える	12月 第5回 地域の人材と一緒にアクションプランを考え、ロードマップを作る
	3月 第4回 アクションプランの報告と次回への展望	7月 第6回 100年後の天竜をテーマにフェスタ天竜にてプレゼン発表

お互いのニーズを調整したり、学校の教育目標を理解してもらったりする場にもなっている「学校」と「地域」との井戸端会議機能

8P

4 高校生と関係人口…

天竜高校生
①天竜区に住んでいる・関わっている
②天竜区外から通学している+関わっている
③天竜区外から通学している

天竜区に詳しい
天竜区に愛着がある
とは限らない

・地域を知る機会を増やす
・地域の人のつながりを創る、増やす

高校生を全員、地域に愛着を持つ「天竜区のファン」にする!!!

15P

まとめ

天竜ラボの活動を通して見えるもの

地域の高校生は、地域について知らないことも多い。そのため、地域を敬遠したり、拒否したりしていることが多い。「地域を知る」「地域にかかわる」「地域の人とつながる」ことが地域の未来を創っていく。

とはいえ、現代社会は地域機能が弱まっている。学校や高校生がハブとなって、地域の井戸端会議的なおしゃべりの場を作っていくことが大切。天竜ラボは、他の高校生が関わりやすい環境(場所や地域の方との交流場)をこれからも積極的に作ってきたい。

16P



1P

1.くんま水車の里とは

1987年 くんま水車の里グループが女性を中心に誕生。
金田三和子さんと大平展子さんなどがけん引
1989年 第28回農林水産祭「むらづくり」部門で天皇杯を受賞。
1995年 静岡県で2番目に「くんま水車の里」が道の駅に認定。

くんま水車の里で働くお母さん＝「かあさん」と呼ぶ
かあさんの店での「かあさん」は、笑顔でお客様を迎えている。
一連の作業を手作業で行っている。ぬくもりを売りにしている。

そば打ち・五平餅づくり・こんにやくづくりの体験型イベントなどを行い年間約5万人の大人や子どもが訪れている。

3P

3.オリジナル五平餅販売

オリジナル五平餅の販売を行ってみたい感想
販売中に、お客様から声を掛けていただくことがあり、お客様とのコミュニケーションの難しさを知った。

くんまでは、お客様との円滑なコミュニケーションから人と人の結びつきがあり、30年以上続く要因ではないかと考えた。

5P

4.水車の里とW-B

5つの要素に当てはまるくんま水車の里の行動

- ①仕事とプライベートの両立が適切に維持されている
- ②職場の人やお客様との関係が良好である
また、高校生と連携して、新作五平餅製作を行っている
- ③村おこしから30年以上働いていく中で、毎年総額1億円以上の売り上げがある。**里お母さん達**の力
- ④人間関係が良好なため職員同士がなんでも言い合える
- ⑤自分の持ち場をもち、責任感を持ちつつ一生懸命に取り組むことができ、快適に働くことができる

7P

要旨

過疎・高齢化地域の浜松市天竜区熊にある道の駅「くんま水車の里」での製作・販売作業が、地域の高齢女性にとってのウェルビーイング向上に役立っていることの調査報告。

道の駅「くんま水車の里」(浜松市天竜区)では郷土食である五平餅を「かあさん」(水車の里のスタッフの呼称)たちが手づくりで販売している。私たちは、地域の郷土食としての五平餅を大切に作り続けていることや五平餅を通して人々と楽しく交流する様子から、五平餅の販売が「かあさん」のウェルビーイングを高めていると感じた。

また、私たち高校生が「かあさん」と協働してオリジナル五平餅を販売することもウェルビーイングを向上させる一つの方法だとわかった。

道の駅が拠点となり、地域住民、都市部からの観光客、地域の高校生などとの交流が活性化することで、中山間地域の未来が拓けていく。

2P

2.天竜ラボ五平餅制作

くんま水車の里の高橋薫さんと新作五平餅についてミーティングを複数回行い、昨年は**ピザ五平餅**、地元の鹿肉を使用した**鹿肉五平餅**を、今年は**ポテチ五平餅**、抹茶チョコ五平餅を開発販売した。水車の里の方から製作のレクチャーを受け、イベント当日は約120本の五平餅の調理・販売を行った。

また、水車の里の五平餅の**パンフレット**を作成し、地元の小中学校を含め3000部を配布した。

4P

4.ウェルビーイングとは

肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態のことを意味する概念

※1946年「世界保健機関憲章」における「健康」の定義

5つの要素

- ① career Well-being
- ② Social Well-being
- ③ Financial Well-being
- ④ Physical Well-being
- ⑤ Community Well-being

アメリカ・グループ(Gallop) (2010)
出典: PERSON HOLDINGS 株式会社

6P

5.インタビュー結果1

Q.はたらくうえでの原動力になっていることは？

- 都市部から来るお客さんや、地域の**人とのふれあい**
- 所JAPANの道の駅グランプリで**温かさやぬくもり**を評価されたこと
- かあさん同士の団らんで**言いたいことを話すこと**

↓

人々と交流することを楽しみ、
ストレス発散をしている

所JAPANの取材の様子
2022年9月20日放映

8P

5.インタビュー結果2

Q.高校生との関わりをどのように感じた？

- 昨年の高校生考案の五平餅に**刺激を受けた**。
- ➡新しい考えに対する寛容性が高い

Q.健康に気をつけていることは？

- 五平餅を焼くときの熱中症・やけど
- 一緒に働くメンバーに自分の健康状態を共有すること
- 持病を悪化させないこと

※くんま水車の里の定年は75歳
※無理のない出勤シフトを組む

➡協力し合い、無理なく働く環境が整っている

9P

6.結論

くんまにも長年人口減少、高齢化などの社会課題があるが、**関係人口や観光客を増やし**ながら、**〈地域の女性たちの幸せ〉を第一に考える笑顔あふれる「かあさん」の姿があった。**

インタビューなどから、「かあさん」が人と結びつきを大事にしていることがわかった。職場の仲間、地域住民、観光客、高校生など。そのため、良好な社会関係、心身の健康、組織の満足度などの要因を満たしていると考えられる。

今後も引き続き、「かあさん」との連携を深めていきたい。

10P

つくる、だけじゃない!

伝統×新しさ

先輩からのメッセージ

地域のために何かできないか。この思いから始めた天竜ラボの活動で、私たちはさまざまな経験をしました。

例えば、天竜の未来を考える若者会議やオリジナル五平餅の製作などの活動をおこない、地域の方々と継続して、地域について楽しく考えることができました。また、地域の方々と交流をするなかで、そのあたたかさに触れると同時に、親睦を深められました。その結果、活動を始める前よりも、地域に対する関心や愛着が深まったと感じます。

また、地域の方々の話を理解し、自らの意見を伝えるコミュニケーション能力や、地域についてさまざまな角度から考える力なども高められたと思います。今後も、高校生が活動することで、高校生自身や、地域住民の方々などに、地域への関心を深めてもらえるといいなと思います。



先輩からのメッセージ



今までの活動をさらに発展・向上させて、より良いものにしてけると期待しています。そして、これからも地域交流を広げていってほしいです。

最初は、地域に関心をあまり持たなかった私達が、地域の郷土料理である五平餅を企画のスタートラインとして活動してきた結果、多くの地域の魅力に触れ合うことが出来ました。活動の幅が広がり、地区内だけでなく、地区外でも私達の活動を知ってもらい、認知度を高めることが出来ました。そのため、今では、若者会議等の活動を通して、より地域に愛着や興味を持つ人が増えてきています。後輩達には、高校生ならではの奇想天外なアイデアをどんどん出していくのと同時に、自分達が築き上げてきた

天竜区長からのメッセージ



天竜区役所
区長 袴田雄三

日ごろ、区政の推進にご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。昨今の少子高齢化や地域のつながりの減少等により発生する様々な課題を解決するためには、学校と地域、行政が協働することが必要です。こうした中、天竜高校の皆さんが「天竜ラボ」を設立し、地域の方々との関わりを持ちながら、課題解決に取り組み、天竜区の魅力を再発見し、明るく笑顔あふれる地域にしようと呼びかけられていることは頼もしい限りです。次代を担う皆さんが地域社会の一員として「若い力、若い視点」で行動することにより地域ネットワークが形成され、天竜区ならではの新しい価値を創造し、地域の魅力を高めていくことが、安定して定住できるまちづくりにも繋がるものと思います。皆さんには高校生ならではのアイデアでどんどん天竜区の魅力を発信していただくことを期待しております。

小田切徳美教授からのメッセージ



明治大学農学部
教授 小田切 徳美

「にぎやかな過疎」形成を目指せ

今、全国の中山間地域では、人口減少下にもかかわらず、住民や移住者、そして関係人口などの多彩なプレイヤーとごちゃまぜに活動して、地域課題の解決にも取り組む「にぎやかな過疎」と呼ばれる地域が生まれています。

そのプレイヤーには高校生もなり得ますが、その典型的な挑戦が天竜高校・天竜ラボだと言えます。五平餅パンフづくりはもちろん、若者会議に参加して、世代や出身が異なる人々と意見を交わすこと自体に意味があります。しかも注目すべきは、「学校や高校生がハブとなって、地域の井戸端会議的なおしゃべりの場を作っていく」という方向性を見だしていることでした。これこそが、にぎやかな過疎形成には最も必要な要素に他なりません。天竜地域をますます「にぎやかな過疎」に変えていく一員として、これからもごちゃまぜになって活動されることを期待しています。